

海外安全対策情報（2016年4月～6月）

1 社会・治安情勢

ウガンダでは、銃器を違法に所持する者が増加しています。原因としては、近隣諸国、南スーダン及びコンゴ(民)(DRC軍)における治安の悪化にともない、銃がウガンダへ流入しており、北部では銃器を使用した犯罪が多発しています。ウガンダ政府は、全ての銃の再登録や違法に流入している銃の返還を命じていますが、今後も銃器を使用した犯罪には十分注意が必要です。

○グル県 (Gulu) : 北部

グル県では、若者による犯罪事件が増加しています。警察の調査によると、仕事を見つけるためにグル県に流入してきた若者が、仕事を見つける事ができず、アルコールや麻薬等を使用し、窃盗等の犯罪事件を起こしています。

○イバンダ県 (Ibanda) : 南西部

イバンダ県では、家庭内暴力が増加しており、毎月約100件の被害報告がされています。

2 一般犯罪・凶悪犯罪

(1) 盗難・強盗事件

警察の発表によると、帰宅時に強盗被害にあう事件が増えています。4月～6月半ばにかけて強盗事件が78件報告されています。特に被害が多く発生しているカンパラ市周辺のキワツレ、ナジェラ、クランビロ、ナリア、チリワジャラ、ナムゴンゴ、ガヤザ地区では、警察官による夜間巡回が実施されると同時に、警戒が呼びかけられています。

○カンパラ市 (Kampala) : 中央

ア 4月12日、カンパラ市及びワキソ県で強盗を繰り返していた、7人組の強盗集団が逮捕されました。7人中4人は女性で、逮捕時小型機関銃及び弾丸を所持していました。

イ 5月18日、UPDFになりすまし、強盗を繰り返していた6人組の強盗集団が逮捕されました。逮捕時、AK47(5丁)、拳銃(3丁)UPDF制服(5着)を所持していました。

○ルウェロ県 (Luweero) : 中央

5月19日、窃盗されていたバイク30台が警察により押収されました。押収されたバイクには、偽造ナンバー・プレートが設置されていました。警察の情報によると、今年の1月から、ルウェロ県、ナカソンゴラ県、ナカセケ県から60台以上のバイクの窃盗事案が報告されています。

○ンゴラ県 (Ngora) : 東部

5月25日、ンゴラ地区及びクミ地区において強盗を繰り返していた、4人組の強盗集団が逮捕されました。逮捕時、同強盗集団はAK47及び弾丸を所持していました。

(2) 殺人事件

○カヌング県 (Kanungu) : 南西部

4月28日9時頃、1人のUPDF兵士が7人を射殺しました。7人の内1人は、当該兵士の妻でした。同兵士はその後警察へ出頭し逮捕されました。

○ムコノ県 (Mukono) : 中央

5月6日9時頃、2,500,000シリング及び4台の携帯電話の盗みを企図した者が3人を射殺しました。その後、犯人は警察に逮捕されました。

○アルバート湖 (Lake Albert) : 北西部

5月21日、アルバート湖を巡回していた4人のウガンダ警察官がDRC軍によって射殺されました。本事実の詳細に関しては公表されておりません。

○ジンジャ県 (Jinja) : 東部

5月23日23時頃、1人のUPDF兵士が自分の妻を殺害しました。その後、犯人は警察に逮捕されました。

○グル県 (Gulu) : 北部

ア 5月27日、何者かがグル県にあるUPDFの基地を襲撃し、兵士1人と子供1人が射殺されました。警察の捜査によると、自動小銃の奪取が目的とされており、8丁の銃が奪われました。

イ 6月12日、ウガンダ人民会議 (UPC) の支援者10人がグル警察署を襲撃し、応戦したUPDF及び警察との間で銃撃戦が発生した結果、UPDF兵士4人、警察官2人が死亡しUPDF兵士4人が重傷を負いました。襲撃の目的は、UPCに所属する政治家1人の刑務所からの釈放とされています。

○カンパラ県 (Kampala) : 中央

6月16日16時頃、1人のウガンダ治安維持要員が、無差別に8人（女性4人、子供3人、兵士1人）を射殺しました。死亡した4人の女性及び3人の子供は、犯人の家族でした。最近、軍兵士による殺人事件が増加しています。

(3) 強姦事件

邦人が被害に遭ったとの情報には接していませんが、ウガンダにおいては強姦事件が深刻な問題となっています。また、被害者となる女性の大半が未成年者であり、近親相姦が頻繁に発生しています。

○グル県 (Gulu) : 北部

4月2日の報道によると、グル県では、毎月約60件の強姦事件が発生しており、昨年（2015年）には、733件の強姦事件が発生しております。

被害者の多くは14歳以下の子どもとなっています。

3 テロ・爆弾事件発生状況

テロ・爆弾事件は発生していません。しかし、ウガンダ政府は近隣国ソマリアの治安向上を目的にアフリカ連合ソマリアミッション(AMISOM)に自国軍を派遣し、ソマリア武装テロ組織「アル・シャバーブ」に対する掃討作戦に参加しています。このため、同組織はウガンダへの反発を強めており、しばしば当国を名指しで報復する旨発言していることから、引き続き注意する必要があります。

また、シリアやチュニジアにおいて日本人が殺害されるテロ事件をはじめ、ISIL(イラク・レバントのイスラム国)等のイスラム過激派組織又はこれらの主張に影響を受けている者によるとみられるテロが世界各地で発生していることを踏まえれば、日本人・日本権益がテロを含む様々な事件に巻き込まれる危険があります。このような情勢を十分に認識して、誘拐・脅迫・テロ等の不測の事態に巻き込まれることがないように、渡航情報及び報道等により最新の治安・テロ情報等の関連情報の入手に努め、日頃から危機管理意識を持つとともに状況に応じて適切で十分な安全対策を講じるよう心がけてください。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人が誘拐・脅迫される事件は発生していません。しかし、ウガンダにおいては人身売買および身代金を目的とした誘拐事件が多数発生しており、邦人が巻き込まれる可能性も否定できないため、滞在中は警戒を怠ることのないよう十分注意してください。

○ユンベ県(Yumbe)：北西部

5月16日、南スーダンとの国境にあるユンベ県にて、武装した集団による、20名の誘拐事件が発生しました。南スーダンの反政府グループによる犯行の可能性があると考えられています。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

対日感情が良好なこともあり、日本企業であることを理由に標的とされる可能性は低いですが、上記「テロ・爆弾事件発生状況」のとおり、テロが世界各地で発生していることを踏まえれば、日本人・日本権益がテロを含む様々な事件に巻き込まれる危険も排除できませんので、十分注意のうえ安全対策を怠らないよう努めてください。

以上